

人口ビジョン・総合戦略の構成イメージ

人口ビジョンの構成イメージ

■人口の現状分析

- ・ 2010年12月をピークにほぼ横ばいが続く現状
(出生数の減少、死亡数の増加、社会増の減少)
- ・ 人口の変化が地域の将来に与える影響
 - ① 少子化の加速
 - ② 社会保障費などの増加
 - ③ 公共施設の維持管理費等の増加
 - ④ コミュニティ機能の低下
 - ⑤ 商業環境や医療環境の悪化
 - ⑥ 労働力の減少による工場や事業所などの撤退

■目指すべき人口減少対策の方向

- ・ 3つの基本的方向
 - ① 音更で生涯を送ることができる条件整備
 - ② 音更で生まれ育った人が町に戻り、子どもを産み育てたいような環境づくり
 - ③ 音更生まれでない人が音更に行ってみたい、住んでみたいと思える環境づくり

■人口の将来展望

- ・ 国の長期ビジョン期間(2060年)を基本とした、総人口や年齢3区分などの将来推計の提示
 - ① 国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を基本
 - ② 合計特殊出生率に目標値を加味
(2030年→1.80、2040年→2.07)
 - ③ 2060年において社人研推計を約4,200人上回る



総合戦略の構成イメージ

■政策の柱(国の戦略と連動)

(参考例)

(国の戦略における基本目標)

- | | | |
|-------------------------------|---|-------------------------|
| ① 本町の強みを活かした産業を振興し、雇用の場を確保する | → | ・ 地方における安定した雇用 |
| ② 若者が結婚し、子どもを産み育てたいという希望を叶える | → | ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える |
| ③ 音更に住み続けたい、住んでみたいと思える環境を整備する | ↗ | ・ 安心な暮らしを守り、地域と地域を連携する |
| ④ 音更の魅力で人を呼び込む、呼び戻す | ↘ | |
| ⑤ 十勝圏や北十勝など、広域連携の推進 | → | ・ 地方への新しい人の流れ |

■施策に対する基本的方向

「①本町の強みを活かした産業を振興し、雇用の場を創出する」の参考例
 ・ 本町の基幹産業である農業やそこから産まれる食、特色ある温泉を有する観光、立地上の利便性や災害が少ないという環境など、本町の強みといえる地域資源や特性を活かし、既存産業の進展や新たな分野の産業振興などを後押しし、雇用の場が拡大するようにします。

■施策ごとの重要業績評価指標(KPI)

【参考例】

- | | |
|------------|-----------------------|
| ・ 施策の方向 | 本町の強みを活かした産業の振興 |
| ・ 具体施策 | I C 工業団地の拡張と、新たな企業の誘致 |
| ・ 重要業績評価指標 | I C 工業団地誘致企業の累計 35社 |